

# ホリホリの旅の絵日記

堀道広 文・絵  
Hori Michihiro

Vol.008

何代も前のご先祖様たちに  
吹屋の不思議で美しい風景を



ほりみちひろ●1975年、富山県生まれ。うるし漫画家。98年「月刊漫画ガロ」でデビュー。漆職人の経験を生かし、金継ぎも手がける。最新刊は「おうちでできるおほか金継ぎ」(実業日本社)。



いつからか私は、あまりに視覚的に不思議な、美しい風景を目にすると、「こんな風景、自分の先祖十代さかのぼっても誰か見たことあったか?」と考えるようになりました。岡山県高梁市(たかはし)の吹屋(ふきや)という場所にベンガラ色の街並みがあると聞き、どうしても行ってみたいになりました。

江戸から明治にかけて鉾山の町として栄えた吹屋は、特に江戸末期からは、ベンガラの国内随一の産地として名を馳せました。

ベンガラというのは、鉄の赤く錆びた色、簡単に言えばレンガ色のおそらくもっとも古くからある、人間に馴染みの深い赤い顔料のことです。ちなみに私は、漆の小物を作って塗る仕事もするのですが、ベンガラを練り込んだ漆もよく使います。ベンガラは漆の顔料の中では一番安価で、原初的な魅力があるので好きです。

バスを降り、忽然とベンガラ色で統一された風景が目の前に現れました。忽然と、言っても、しつかり調べて行ったわけですが……。「キタキター!」という、胸のざわつきと共に私は思いました。「こんな風景、自分の先祖十代さかのぼっても誰か見たことあった

か?